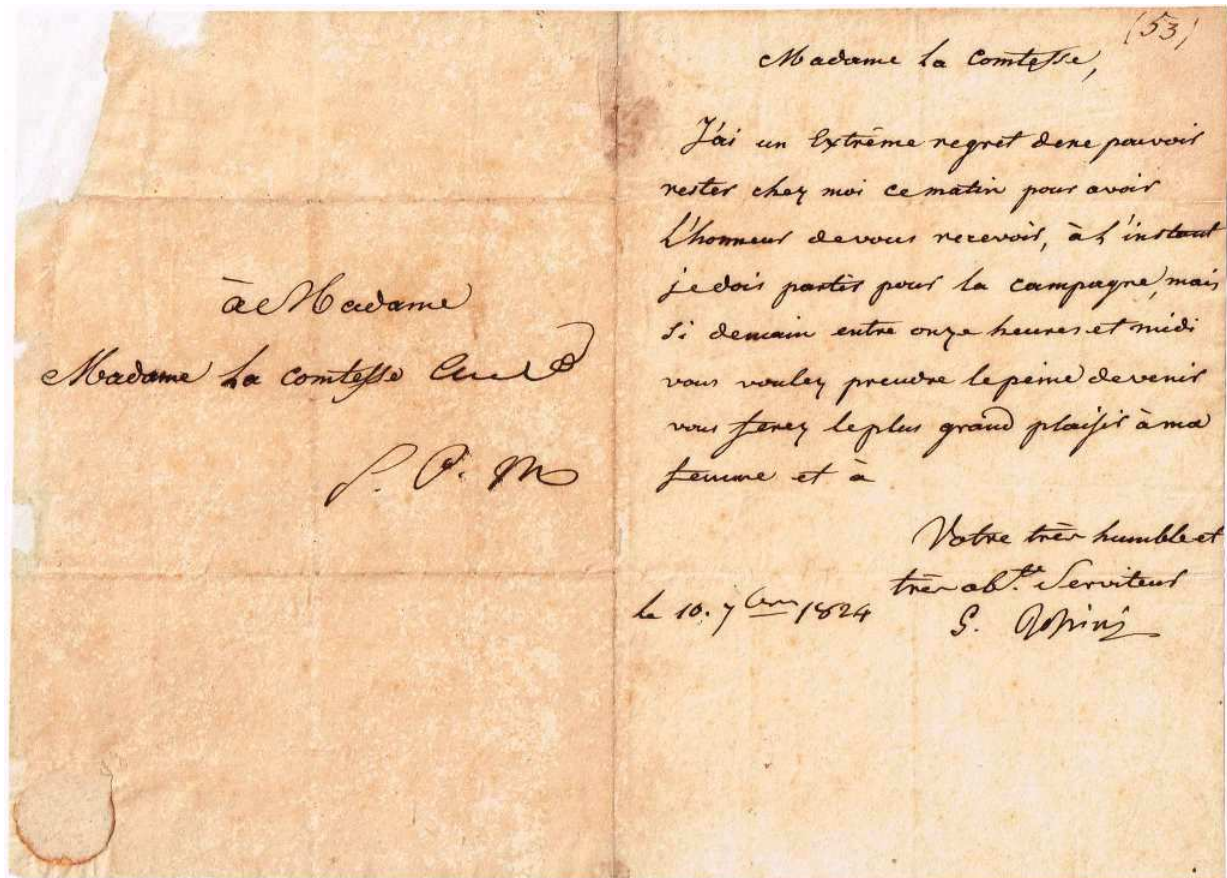


ロッシーニの書簡、自筆署名入り 1824年9月10日付

(水谷彰良コレクションより)

ロッシーニの署名入り書簡 [?]伯爵夫人宛、1824年9月10日付



A Madame La comtesse [? Cu...], Lettera firmata di Gioachino Rossini [Paris] le 10^{bre} 1824.
[Collezione privata di Akira Mizutani - Tokyo]

解説

ロッシーニ最初のパリ訪問は1823年11月9日、ロンドンに向かう旅の途上であった。12月7日まで約1カ月のパリ滞在を経てイギリスに渡り、12月13日から翌1824年7月26日まで7ヶ月間ロンドンに滞在、国王ジョージ4世に寵愛された。そしてイタリアに戻る途上8月1日に再度パリに足を踏み入れ、9月12日に帰国の途に就く。1824年9月10日の日付を持つこの自筆署名入り書簡は帰国のためパリを発つ2日前に書かれたが、『書簡とドキュメント』に掲載されたその間のロッシーニ書簡は父宛での2通(第3a巻「両親への手紙」所収のホルブランの手紙1824年8月2日付に記したロッシーニの追伸と8月30日付のロッシーニ書簡)のみであることから、これが現存を確認しうる3通目の手紙となる。

当時ロッシーニはフランス語を解さなかったので、フランス人への手紙は第三者に代筆させ、署名のみ自筆で書き添えた。この手紙もロッシーニの真筆は署名のみで、宛名と文面の代筆者を特定しえない。宛名の判読が難しく、CまたはCuで始めると判るだけなので、[?]伯爵夫人としておく。用紙サイズは17.5×24.2 cm、開封の際に蝋印部分が剥離した左上の部分は補修されている。

文面は、伯爵夫人から訪問の打診があったことに対して明日の昼前に訪ねてくれるよう答えて、「今朝拙宅であなにごくお目にかかる栄に浴することができず、私はとても残念です。私は田舎に発たねばなりませんが、もしもあなたが明日の11時と正午の間に私を訪ねる労をおとりいただければ、私の妻[と私]にとってこの上ない喜びです」とある。

(2014年11月作成。水谷彰良)